

## 論点・課題（案）

### ＜前提/共通事項＞

- 平成 26 年 8 月の報告書をベンチマークとして将来のビジョンを検討
- 研究者や大学当局に対してジャーナルの現状を正確に周知・伝達
- 各分野の研究者が論文の受発信に対して何を望んでいるかが重要
- 検討の前提としてジャーナルを取り巻く定量的なデータが不足
- ジャーナル経費が増加するほどその影響は研究費に波及する現状
- 現在の査読を中心としたパブリッシング・スキームの将来像

### 1. ジャーナルの購読料負担への対応

- 各大学等におけるジャーナル経費負担の状況
- 各大学等におけるジャーナル利用の状況（利用統計等）
- 契約形態の検討、購読するジャーナルの選定
- 価格交渉力の強化
  - ・ 大学等の研究部門との連携、情報共有
  - ・ 研究開発法人等との連携
  - ・ 大学等執行部のコミット（大学の経営・情報資源戦略との関係）
  - ・ トップ大学や大学等の規模等で括った交渉
  - ・ 契約・交渉の形態（学長主導、学長連合等）
- JUSTICE に集まる情報の大学等へのフィードバック
- 海外有力ジャーナルの査読への協力の是
- 「arXiv」のようなりポジトリの活用
  - ・ 特に物理、バイオ、情報分野では積極的
  - ・ 他分野への展開の可能性
- セーフティネットの確保
  - ・ 交渉の結果、契約を中止した後の影響
  - ・ ビックディール以前の購読誌の規模
  - ・ プレプリントなどの活用
  - ・ グリーン・オープンアクセス（セルフアーカイブ）の促進

### 2. 欧州諸国が推進するオープンアクセス化への動きへの対応

- OA2020、PlanS への対応
  - ・ 現状の把握
  - ・ 我が国としての対応の方向性

- 大学等における APC 負担の状況
  - ・ 各大学等におけるデータ把握の要請
  - ・ データ収集（調査の実施）
- 若手研究者等への影響
  - ・ 真に困窮している研究者の実状
- OA を含めた契約モデルの検討
- 諸外国との連携・協力

### 3. 研究成果の発表・公開の在り方

- 日本人研究者の論文の発信力強化
  - ・ トップジャーナルのエディターに日本人を増やす取組
- プラットフォームの強化
  - ・ J-STAGE の機能強化
  - ・ 機関リポジトリ（JAIR Cloud）の拡充、機能強化
  - ・ プレプリントなど新たな動きへの対応
- 我が国のジャーナルの発信力強化
  - ・ 日本のジャーナルの質的向上
  - ・ メタデータの機械可読化、オープンアクセスライセンスの表示
- オープンアクセスジャーナルの育成（成果公開促進費）の強化
- 将来の研究成果公開の考え方

### 4. 研究者（及び研究機関の）評価の在り方

- ジャーナルや論文のみに依存しない評価の在り方
- 複数手法の導入、多角的評価
- 新たな評価指標の開発・整備
- 研究者コミュニティ（学協会等）の意識
- 研究分野ごとの違い

### 5. その他

- 研究データを巡る状況
  - ・ データポリシー策定の促進
  - ・ 研究データの保存・管理の重要性
- 著作権の取扱い
  - ・ フェア（FAIR）ユースの概念の導入